

巻頭特集:  
プールに飛び込む  
ような経験!!

新シリーズ:  
世界で学ぶ!!  
はじめの一步

好評連載:  
言葉の玉手箱

TOEFL受験者  
インタビュー拡大版:  
教える側から

TOEFL-CBT  
セミナー開催  
スケジュール

必見!  
耳より情報

HOME

## Welcome to TOEFL Mail Magazine!



ひな祭りも過ぎ、春一番も吹いて本格的な春の到来ですね。

卒業式の晴れ着姿を見かけて、ふと昔を思い出してみたりする方も多いのではないのでしょうか。

さて、ハリー・ポッターに、ベッカム様。ガーデニングに、アロマテラピー、リフレクソロジー・・・

最近はやったこれらのキーワードで思い浮かべる国といえば、そう、**イギリス**です。今月のTOEFLメールマガジンでは、先月号に続く**春の留学応援企画**として、歴史や文化、アートで、今も昔も多くの国から学生を惹きつける**イギリス**を特集します。

大好評の新シリーズ：「世界で学ぶ!!はじめの一步」では、英国の国際文化交流機関**プリティッシュ・カウンシル**を訪問!

巻頭特集では、多くの英語学習者を教えてこられた**英国ケント大学カンタベリー**の大学英語センター長が、英語の学び方や留学の心構えを分かりやすくお話していただきます。

春は何だか新しいことにチャレンジしたくなる「希望」の季節。

春風に背中を押してもらって、

夢に向かって歩きだしませんか?



メールマガジンに登録する

### 巻頭特集：プールに飛び込むような経験!!

～海外で学ぶ魅力（英語の学び方）～

英国ケント大学カンタベリー 大学英語センター所長 Nancy J. Gaffield先生 インタビュー

今回インタビューにご協力いただいたのは、日本・アメリカ・イギリスの大学で英語を教え、多くの留学生をご覧になってこられたNancy J. Gaffield先生です。アメリカ生まれで、現在はイギリスのケント大学においてEnglish Language Unit (ELU)の大学英語準備コース責任者として多忙な日々を送られる先生は、ご家族と共に日本で生活されたこともあり、日本を「第二の故郷」と呼ばれるほどの親日家でもあります。外国人への英語教育の専門家としての豊富なご経験とご自身の海外生活のご経験から、「英語の学び方」や「留学の心構え」をテーマにお話を伺いました。

### シリーズ：世界で学ぶ!!はじめの一步（イギリス編）

プリティッシュ・カウンシル 教育プロモーション・マネージャー 高橋 みのり 氏 インタビュー

CIEEは各国への留学を考えている皆さんを応援しています!! このシリーズでは、留学への「はじめの一步」を踏み出すための情報をお伝えしていきます。分かっているようで実ははっきりと把握できていない各国の留学情報を、公的情報機関を訪問して専門家に伺います。2回目の今回は、ガーデニング、フラワーアレンジメントやアート関連でも人気を誇るイギリスを取り上げ、プリティッシュ・カウンシルの教育プロモーション・マネージャーの高橋 みのりさんにお話を伺いました。

### 好評連載：言葉の玉手箱

ETS公認コンサルタント 川手-M 恩 先生による言葉の新発見

英語に限らず外国語を学習していると、言葉の世界の奥深さに気付かされます。古来の日本人は言霊（ことだま）と評して、言葉には霊が宿り、見えざる力を働かすのだと考えました。使い慣れた短いフレーズの中にもコミュニケーションを左右するほどの力があるのです。

ご好評頂いている連載「言葉の玉手箱」では、ETS公認コンサルタントの川手 ミヤジェイエフスカ 恩先生が、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方の重要性に焦点をあて、興味深く解説していただきます。言葉の世界の面白さをお楽しみください。



メールアドレスが変更になった方は、こちらのアイコンをクリックのうえ、ご連絡下さいますようお願いいたします。

### TOEFL®受験者インタビュー・拡大版：「教える側から」

#### 留学後、大学で英語を教える 小林 剛 氏 インタビュー

今回は、TOEFL受験者インタビューの拡大版として「教える側から」と題し、フルブライト奨学金で米国ブラウン大学へ留学され、Teaching AssistantやResearch Assistantを経験された後、日本の4つの大学において英語を教えていらっしゃる小林 剛さんに、日米の教育の違いなどについてお話を伺いました。

### イベント・セミナー情報：(ご案内のセミナーは既に終了しています)

#### TOEFL®-CBTセミナースケジュール発表

当事業部では、国際標準の英語能力評価試験であるTOEFLの日本事務局として、コンピュータ版TOEFL (TOEFL-CBT) について分かりやすくご説明するセミナーを無料で開催しております。(東京：毎月1回、関西：隔月1回予定)

ご好評頂いているこのセミナーでは、ETS公認コンサルタントが試験対策とともにコンピュータ版試験の説明をいたします。質疑応答の時間もございますので、不安を取り除いて本番試験に望めます!!セミナーに参加いただいた方にはTOEFL CD-Sampler(定価\$18：サンプル問題67題含む)も無料で配布しております。

世界に飛躍するために今後TOEFLを受験されるご予定の皆様はもちろんのこと、コンピュータ版TOEFLにご興味のある方はどなたでも参加できます。今後の準備に是非お役立て下さい。

### 必見！耳より情報：

#### GRE新教材入荷のお知らせ

お待たせいたしました!!皆様からのご要望が多かったGREのための新しい教材「GRE：Practicing to Take the General Test (10th Edition)」が入荷しました!! 内容と特徴は、こちらをご覧ください。

## 巻頭特集：プールに飛び込むような経験！ ～ 海外で学ぶ魅力 (英語の学び方) ～



英国ケント大学カンタベリー 大学英語センター所長 Nancy J. Gaffield先生 インタビュー

今回インタビューにご協力いただいたのは、日本・アメリカ・イギリスの大学で英語を教え、多くの留学生をご覧になってこられたNancy J. Gaffield先生です。アメリカ生まれで、現在はイギリスのケント大学において大学英語センター (ELU) 所長として多忙な日々を送られる先生は、ご家族と共に日本で生活されたこともあり、日本を「第二の故郷」と呼ばれるほどの親日家でもあります。外国人への英語教育の専門家としての豊富なご経験とご自身の海外生活のご経験から、「英語の学び方」や「留学の心構え」をテーマにお話を伺いました。



### ■ Nancy J. Gaffield 氏 プロフィール ■

#### 【経歴】

現： University of Kent at Canterbury  
The Head of Language Unit

MA in English Literature from the University of Northern Colorado

MA in Teaching English as a Foreign Language from University of Kent

\* \* \*

アメリカ出身。アメリカのオレゴン州立大学、日本の東海大学、そしてケント大学において20年の教鞭経験をお持ちで、1985年から1990年の5年間にアメリカのボストン大学において数々のインターナショナルプログラムのディレクターを務める。現在は、英国ケント大学において、英文化学・言語研究部文学科をはじめとして、アカデミック英語の教鞭をとる。

### ■ 英語の学び方

- 日本では昨年文部科学省が「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を発表し、大きな話題になりました。日本・アメリカ・イギリスで英語を教えてこられたご経験から日本人が英語を学ぶのに一番いいのはどのような方法だと思われますか？

**Nancy** 言語をマスターする人たちに関して多くの事例がありますが、それによるとリスクテイカー（大胆で失敗を恐れない人）は一般的により成功するといわれています。これは、ある程度日本の学校教育と関連があるのではないのでしょうか。日本の学生はミスをするのを特に恐れて黙ってしまい、間違っているかもしれないと思うのを口に出すのをやめてしまうことがあります。実は、それが一番いけないことなのです。なぜなら、「学ぶ」ということは、なんといたっても間違いをした時に、それを訂正してもらい、それを記憶していくことです。もし何も話さずに黙ってしまったら、自分のためになることを断ち切ってしまうことになってしまいますよね。ここにRisk-takingの要素があるのだと思います。



同時に、語学を習い始める年齢も関係しているかもしれません。ヨーロッパでは小学生というとても早い段階から英語を話し始めます。日本の場合は12歳くらいで、それは悪くない年齢だと思いますが、文法だけに集中するのは問題だと思います。日本の教育機関での英語は紙の上での勉強のようで、使うという実際のコミュニケーションで使われるものでもなく、言ってしまうと死語のような気さえします。それが問題ですよね。もし、6年後くらいに人々が英語を道具として使いたいと思ったとしても、既に人々の中に英語

のSpeakingに対するある種の不安が出来上がってしまっていて、機会を失ってしまっています。本当にもったいない話です。

つまり、英語を実際の生活で使うような環境が必要です。それから、英語をもっと早い段階から学び始めるのです。またその際に、英語を媒体として何かを学ぶようにすることが重要だと思います。そして、外国へ行くこと。この3つが基本ですね。ヨーロッパの国々では英語を言語として学ぶのではなく、英語を通して様々な教科を学んでいます。ですから、ヨーロッパの人々は語学という面からだけでなく、より幅広い意味で英語を使っていることが大きな差を生む一因ではないかと思います。つまり、英語を言語としてではなく、ある分野について英語を「道具」として学ぶことが英語能力を迅速に伸ばすことに役立っていると思います。勿論、ヨーロッパの言語と英語が日本語とよりもかなりの相似性があり、英語を使って何かを学ぶことについてはヨーロッパの人々の方が利点がたくさんあると思います。地理的な面でも、ヨーロッパの人々は英語圏へ多く旅行し、またその逆もあり、相互交換・相互活動があり、そのような点も影響していると思いますね。

私自身の経験から言っても、日本人は英語で外国人と話す時に、あまり自信がないような気がします。私の日本語はこんなにひどいのに頑張って使っていますよ。4月に日本に行った時に、もしかしたら日本語で、少なくとも英語で答えてくれるかもしれないと期待しながら日本語で話し掛けますが、答えが返ってくることは非常に稀です。英語を話せる人でさえ、「わかりません」といって答えてくれません。多分、必要性が低いものには答えたくないのかもしれないし、外国人に話し掛けられて驚いてしまったのかもしれませんが、ほかに思うことは、文化的恥じらいというか、何かミスを犯すことへの一種の遠慮や、恐れがあるのでしょうか。

### - 最良の解決策は何でしょうか？

**Nancy** 外国へ行ってしまうことですね。ある一定の少なくとも1年、できればそれ以上の期間、日本人のいないところへ行って滞在することです。これが一番良い方法だと思います。それから、日本の交換留学生など若い人々に多くの機会を与えることも必要だと思います。少なくとも1年くらい海外へ送り出すことは、今後更に英語教育を推し進めていく上で重要なことではないでしょうか。

日本で、昔の生徒たちに会いましたが、そこで驚かされたことは、彼らの英語は流暢で完璧です。私は彼らをはじめケント大学に来て予備コースを始めた時の一番最初の授業の様子をしっかりと覚えています。その事を覚えているからこそ驚かされるのです。自分自身をさらけ出し、外国で生活し、その国の言葉を使う。これこそが学ぶということだと思います。みなさんはそのようにして英語を学んだのです。

### ■ 適応しようとする姿勢

### - 先生もアメリカ人として日本で生活なさいましたが、完全に異なる文化、言語、状況におかれていると感じましたか？

**Nancy** ええ、とても感じましたね。すごいカルチャーショックも受けました。日本に家があると感じるまでに少なくとも半年かかりました。最終的には、日本をとても落ち着いた自分の故郷だと感じることができましたが、中にはそう思えない外国人もたくさんいます。今も日本の大学で働いているイギリス人の同僚がいます。彼は日本人と結婚し、お子さんもいて長く日本で暮らしていますが、日本が故郷だとは全然思えないと言います。日本に15年、20年と住む人がそう言うのを多く聞きとても驚きました。



これは私の経験ですが、新宿を歩いていた時です。新宿はご存知の通りたくさんの店があり多くの人でごった返していますよね。私はとても天気の良い日にWindow-shoppingをしながら歩いた時、お店のガラスに映った大勢の人の中にちょっと変わった人を見つけました。明るい髪でとても背が高く、一見ギャングっぽい人でした。で、だれだ？と思った時、気づいたのです。なんと私だったのです!! とてもとても驚きました。自分自身に気づかなかったわけです。というのも、自分は日本人のつもりでしたから・・・この様な感じで、私は全てのことに、他の日本人と同じだと思っていました。

## - なぜそれほど「日本」と同化できたのでしょうか？

**Nancy** 私はいままで言葉をしっかり学んだことがなく、会話が機能的にできるくらいのレベルで終わっていました。お店で買い物をしたり、挨拶をしたり、簡単な会話程度です。でも、何人かのとてもいい友達を作り、その社会の人々に完全に受け入れられ、日本での生活を本当に楽しみました。私はアメリカ人の主人と子供と一緒に来日し、日本人社会で生活しました。ご近所もみんな日本人でしたし、我々のほとんどの友達も日本人で、アメリカ人やイギリス人ではありませんでした。日本の家に住み、日本人の友達を作り、日本の社会で日本のやり方で生活したことが一番大きな差を生む要因だったと思います。なるべくアメリカ人と接することを避け、英語を話す環境から離れたことです。

## - 日本にいる間アメリカが恋しくなったことはありませんでしたか？

**Nancy** そうですねえ、なにせ体格が違うので日本では洋服を買ったり靴を買ったりするのがとても大変で、国に帰るたびに大量に買い込むなどしましたのでそういう意味では大変でしたね。（笑）しかし、それ以外に関しては、全くもって答えは「いいえ」です。食事は最初の頃は恋しかったです、はじめのうちだけで今では日本食が大好きです。初めて日本食を食べた時、なんて美味しい料理だろうと思いました。それで、夕飯にも日本食。次の日も日本食、おいしいなあ、と食べつつけていたある日。そういえば、パンを食べてないわ、と思ったのです。当時、成田の古風な地域に住んでいて、西洋のものはほとんどありませんでしたから、毎日味噌汁とご飯でした。最初は恋しかったです、そのうちに完全に日本スタイルの食事をするようになりました。

## - 時々、来たばかりの日本人生徒は日本食が恋しくてホームシックになる人もいますが、先生の場合は日本食に適應されたんですね。

**Nancy** そうですね。（笑）でも、日本人生徒の気持ちは良く分かります。日本食はとても健康的な食事で、これが一番の原因だと思っています。西洋人が日本食を受け入れる方が、日本人が西洋の食事を受け入れるより簡単だと思っています。

一つ、「適應」に関していうと、Foundation CourseにJunior Year Abroad Programで日本からきた生徒がいました。彼女は某有名大学からの生徒でしたが、ここで色々経験したと思います。彼女は、IELTSのスコアも7.5で英語のスキルはかなりいいほうでした。しかし、いつもなにか間違いや欠点を見つけて、日本と比べようとして、彼女はよく「この国ではなんにもうまく機能しないのね」とか「日本だったらもっといいのに」などといったコメントをします。いつも日本と比較をして全ての英国の面に批判的なコメントをするので、我々も彼女はなぜ留学したかったのだろうかと思惑でした。というのも、彼女は全くといっていいほど適應しようとはしませんでした。彼女はここに1年いることになりましたが、今後、彼女の態度が変わるかどうかは分かりません。しかし、私が思うことは、外国に来てその人が最初から偏った見解を持っていると、多くの場合は成功しないということです。

これは前に述べたことに関連しますが、相違点に関して柔軟な考えをもって海外旅行をすることが大切だと思います。違いにも適應できる自分の態度を持つことが必要で、この点でも私が日本で成功した理由だと思います。私はとてもオープンで日本での生活を探求し、日本の文化や人々、生活や、文化など全てのことにとても関心を持ちました。しかし、私も少なくとも「努力」をしましたよ。常に評価や判定を下そうとはしませんでした。これは大きなプールに飛び込むようなことと似ていると思います。頭からかぶる水も恐れずに自分自身を水に投げ込む というのも、異なった文化に行くのは、実際そのようなものなのです。

もう一人、数年前に私が社会学を教えていた頃、エジプトからの生徒がいました。私はクラスの生徒に向かって、「ここでの4年間の勉強は、あなた達を変えることができます。変化への手助けになります」と伝えると、彼は「僕を変えることなんてない。変えられたくも無いし、僕も我々の文化も完全だ！僕には触れて欲しくない！」というのです。彼はとても保守的で、驚くほどでした。なぜここに来たのだろうと思いましたね。彼も、ここで成功するとは思いません。3年前のことで、現在彼は最終学年ですが、いままでずっと同じ言語、同じ文化の生徒と住み、そのグループから外に出ることは一度もありませんでした。機会を失っています。"Opportunity-miss"ですね。しかし、最終的に選択するのは自分です。

## 日本で英語を学ぶ人へのメッセージ

- 日本には多くの学校があり、ネイティブの先生もたくさんいて選択肢は多いのですが、それだけに勉強方法を迷う方も多いようです。先生はどう思われますか？

**Nancy** 色々なタイプの語学学校があると思います。いいのもあれば、あまりよくないものもある。問題は、多くの人が自分にあったレベルの学校をどのように選んだらいいかが分からないことです。また、受講料が高いこともありますね。全てがいいサービスを提供しているとは思えませんし、トレーニングをきちんと受けていない講師がいたりもします。トレーニングはとても大切です。最高なのはきちんとした、外国人のために英語を教える学位、もしくは語学の学位と経験がある教師がいるところですね。ただ、質のいい学位を持っている人は日本では大学で教えていることが多いです。

修了証にも色々あって、若い教師は経験も少なく、日本に来る足がかりとして短期に取得できるものなどしか持っていない場合があります。きちんと教えている事の方が少なく、ちょっとしたお話をするような社交的な集まりといった感じが多いと思います。勿論みんなそのような楽しいものが好きですよ。社交的な集まりもある意味では大切ですが、それだけでは授業料が高すぎます。これがいつも私が心配していることです。ただ、最近では、海外で勉強した日本人が国に帰って日本人に教えることが増えていて、とてもいいことだと思います。

- 最後に、英語を学んでいる人にメッセージをお願い致します。

**Nancy** いままで述べたことのほかにアドバイスとしては、日々の努力です。毎日ほんの少しずつでも勉強することは達成に向けて大きく影響します。

私は、日本語を毎日10分から15分くらいずつ、少しずつ勉強していますが、飛躍的に大きな大きなプログレスはありません。しかし、毎日少しずつ、秩序立てて勉強していくと6ヶ月や1年で驚くほど成果があります。なにも、とてつもなく大きなことに挑戦することは無いと思います。もし私も日本に行って勉強できるならこういう事はしないかもしれませんが、あきらめてしまっているかもしれませんから、少しずつやる方法で私の場合は成果が出てきています。現在は言語コースのためのCD-ROMを使ってコンピューターで日本語を勉強しています。このCD-ROMは文法や漢字の勉強をしたり、日本人が話す日本語を聞いたりすることができます。更に、自分の声を吹き込んでアクセントやストレス、早さなどがネイティブの日本人とどのくらい近いかということを書き込んで見せてくれます。これは私にとってはとても驚きでした。というのも、最近まで私自身の日本語のアクセントは本当にひどいものでしたが、実はこれ、全然間違っていたのです!!(笑) でも、このコースをはじめてから少しずつですが良くなってきました。これなら自分のペースでできるので毎晩少しずつ勉強しています。それに面白いですね。この歳になって文字を書けるようになるとは思っていませんでしたが、最近は漢字をみて画面に出て来るものを覚えられるようになってきて自信がついてきました。



これは、どの言語を覚えるにあたって同じことだと思いますが、小さな自分自身のゴールを立てて毎日少しずつ勉強する。自分自身である程度の進歩があるのが分かるくらいまで毎日頑張るのです。それは後に大きなゴールに結びつきます。例えば、語学コースに登録したり、同じように語学に興味ある人を見つけて1ヶ月に1度会うようなミーティンググループをつくるのもいいと思います。例えばハリー・ポッターの本を読んでそれについて話し合うなど、個人的にも色々やり方はあると思います。そんなに高いお金を掛けなくても方法はたくさんありますし、楽しめますよ。

(日本語で)がんばってください。

- 今日はありがとうございました。

(インタビュー：TOEFL事業部 秋山めぐみ)

## 新シリーズ 世界で学ぶはじめての一步

●●● イギリス編 ●●●

ブリティッシュ・カウンシル (British Council) 教育プロモーション・マネージャー  
高橋 みのり氏 にインタビュー

【インタビュー実施日：2003年2月5日（水）】

CIEEは各国への留学を考えている皆さんを応援しています!!

このシリーズでは、留学への「はじめての一步」を踏み出すための情報をお伝えしていきます。分かっているようで実ははっきりと把握できていない各国の留学情報を、公的情報機関を訪問して専門家に伺います。2回目の今回は、ガーデニング、フラワーアレンジメントやアート関連でも人気を誇るイギリスを取り上げ、ブリティッシュ・カウンシルの教育プロモーション・マネージャーの高橋 みのりさんにお話を伺いました。

### ■ ブリティッシュ・カウンシルについて

- ブリティッシュ・カウンシルについて教えてください。



高橋 ブリティッシュ・カウンシルは**英国の公的な国際文化交流機関**として、留学情報の提供、効果的な英語学習法の普及、アートや科学技術などの最新英国文化の発信(クリエイティブUK)という3つの分野で活動しています。英国留学を考えている方々に、留学情報だけでなく、英語の学習法や文化情報も含めて総合的に提供することで、留学準備を応援しています。

クリエイティブUKの分野では、アート活動など、英国人アーティストを呼んでイベントをしたり、オーケストラやダンス・カンパニーの来日公演をサポートするなどの芸術活動や、英国科学者を招いて日本の高校へ学校訪問をし、セミナーを行うなどして英国のサイエンス教育を紹介したりする科学技術活動、社会科学分野の日英専門家の交流促進などの活動が含まれます。

- こちらで得られる情報はどのようなものがありますか？

高橋 ブリティッシュ・カウンシルは教育分野の情報は特に充実していて、各大学・大学院、専門学校、英語学校、小中高校やアートスクールなどパンフレットや、全部ではありませんがビデオもあります。学校のコースを調べるDirectoryもありますし、無料でインターネットにアクセスできますので学校のホームページを見たり、Searchができます。こちらにある一般的な留学情報関連物としては差し上げるものと販売しているものがあります。それ以外にも観光情報や、英国の新聞、BBCニュースの放送のサービスなどもあり、英国に関心のある方にご利用いただけます。



- イギリス留学の魅力について教えてください。

**高橋** 英国では99年からPMI ( Prime Minister's Initiative )、つまりブレア首相主導で "Education Brand Campaign"という政策があります。この政策では、各国との掛け橋となる留学生を増やそうと膨大な予算をかけて

**New World Class** **Affordability** **Accessibility** **Welcoming** の4つの柱を打ち出しています。

**New World Class** : 世界でも一流クラスの教育を提供していることです。

**Affordability** : 英国留学は授業料が高く割高になるイメージがありますが、実は様々な利点もあります。例えば6ヶ月以上の留学の場合、週20時間までなら無許可でアルバイトができますし、National Health Serviceが使えて医療費が無料になります。いろいろなところで学生割引も使えます。更に、修士号は1年で取得できるなどコースの期間が短いので早く就職できる利点もあり、思ったより経済的なのです。

**Accessibility** : これは、英国留学は皆さんが思っているほど難しくないという点です。英国教育は質が高いので大学・大学院に入りにくいのではと懸念されがちですが、英語研修や様々な入学準備コースもあり、留学生に対してはステップを踏めば留学への道が開かれるようにできているので皆さんが思っているほど難しいことはありません。

**Welcoming** : 英国人は付き合いにくいイメージがあるようですが、留学生を歓迎しています。大学では通常留学生に少なくとも最初の1年間は大学寮に入ることを保証しています。

ブリティッシュ・カウンシルではこのようなイギリスの魅力をお伝えしています。

- 日本人留学生の傾向について教えてください。

**高橋** いま大学・大学院に6,000人くらいの日本人が留学しています。大学での人気分野はビジネス、社会科学関係で、特に日本人には開発学、国際関係学、政治、経済ですね。文系では英語関係、英語教授法、文学が人気です。学部レベルになりますとアート関連も人気です。いずれにしても、英国大学では1年目から専門科目を学ぶので、日本の高校を卒業された方は通常、1年間の準備コースを取ります。入学にあたっての英語能力は、英国のテストということもあり英国大学ではIELTSを勧めています。TOEFLでも出願できます。大学によってはIELTSのみのところもあります。IELTSの試験は東京で月に2回実施しています。ほかに、1~2ヶ月に1度、名古屋、大阪、福岡で実施しています。

- 学位取得の目的で留学される人の割合はどのくらいになりますか？

**高橋** 学部も院留学も増えていて6、7年位前と比べると2倍くらいになっています。学部で学士号を1年生から取る人は増えていますね。ただ、学部留学の内訳がしっかり出てこないの、学士号課程とStudy Abroadのどちらかという区分けはしっかりできません。高校生もいらっしゃいますが、自分で調べて行こうという意志のある高校生は本当にしっかりしていますね。英国における日本人留学生の割合は、大学・大学院レベルではヨーロッパ・EUを除いて5番目ですね。専門学校では2番です。大学では1位が中国で、同じ英語を使えるということもあって、アメリカが2位ですね。マレーシアやシンガポール、香港などからもイギリスに留学してきます。男女比は日本人留学生の75%くらいは女性です。留学先としてはロンドンが多いですね。でも、日本人が少なかったり、勉強しやすい環境があるなどの理由で、地方を好む方もたくさんいらっしゃいます。ロンドンしか知らないで行くのはおすすめできませんが、ロンドンが大好きでいらっしゃるのであればいいと思います。

留学準備の仕方

- 留学準備にあたっての手順を教えてください。



**高橋** まず、ブリティッシュ・カウンシルのWebサイトを見ていただいて、説明会に参加していただく。それから留学ガイドなどを読んだうえで留学フェアに来ていただくのがいいですね。

留学説明会は各ブリティッシュ・カウンシルのセンターと福岡で定期的に行っております。東京では 大学・大学院 英語学校・専門学校 アートの3つの分野を毎月定期的に行っています。どなたでも参加できますが、予約制で、多いときは40～50人の参加があります。フェアはいきなり参加するよりも、その前に少し下準備をしてから大学やカレッジの先生に相談する方がいいですね。留学フェアは毎年10月に東京・大阪・名古屋で開催しております。ブリティッシュ・カウンシルは夕方や土曜日も開いています。お気軽にご来館下さい。

#### - 大学へ出願するには何が必要ですか？

**高橋** 留学にあたって、英語のスコア・学校の成績証明証・学校の先生のReferenceなどがが必要です。大学独自のテストやインタビューを課すところもありますが、アメリカのようなSATなどの特別な試験資格は必要ありません。学校の成績はもとより、その人の意欲・意志がしっかりしていて、外国での生活に耐えうる精神力も必要です。趣味など活動の幅が広く国際社会に適応し、自分の主張ができるパーソナリティーのしっかりしている人ですね。願書の中にこのようなことを書くStatementがありますし、インタビューなどで最大限にアピールすることが大切です。日本人は留学を考える時、英語ができなければいけないとイメージする人が多いようですが、英語はあくまでも手段のひとつです。言ってしまうと、入学時に英語ができなくても、準備英語コースはいくらでもあります。がんばって勉強すればいいのですから、まずは、留学してやりたいことを見つけたいといけません。楽しもうという気持ちも大切ですね。実際、今まで自分がしてきたこと、興味があること、勉強したいことなどについてきちんとした事を書けないと願書のStatement欄はなかなか埋まらないですよ。

#### - 英語は多少できなくても大丈夫ということでしょうか？

**高橋** 大体、日本の高校を卒業してすぐの人は、準備コースに入ってから大学に進学することになります。英語に関して言えば、英語ができない場合は受験者本人のために落とされます。授業料を払い、3年から4年もの時間を自分に投資しても、英語が分からない、本が読めない、Essayが書けないということになると本人にとっては不幸なことになりますので、そのような人は最初から入学させないということです。もしくは条件付入学などで、前もって3ヶ月の英語研修などを受けさせ、もう一度テストを受けて結果がよければ入学できるようなシステムになっています。あくまでもその人のためのことなのです。



#### - 帰国後の様子などについての情報はありますか？

**高橋** 去年11月にAlumniウェブサイトを作りました。この勉強をしたからこの仕事ができるという直結したものはありませんが、アート関係ではデザイナーになってロンドンで頑張っている人や、ビジネスでは会社を設立している人、アロマの勉強をしてきて日本でアロマセラピーをしている人など活躍している人もかなりいます。ストーリーもかなり集まってきているので、メディアなどを通してどんどんお伝えしていきたいと思っています。

#### - 本日はどうもありがとうございました。

ブリティッシュ・カウンシル ( The British Council Tokyo )

東京都新宿区神楽坂1-2

\*営団・都営地下鉄/JR 飯田橋駅下車 ( 地図は [こちら](#) )

03 - 3235 - 8031

<http://www.uknow.or.jp>

【各地のブリティッシュ・カウンシル】

- ・愛知県： 名古屋市東区桜1-13-3 NHK名古屋放送センタービル6階  
052-963-3671
- ・京都府： 京都市中京区烏丸通り錦小路上ル手洗水町659  
烏丸中央ビル8F ブリティッシュ・カウンシル  
京都センター  
075-791-7151
- ・大阪府： 大阪市北区堂島1-6-20 堂島アンバサ4階  
06-6342-5301

( インタビュー：TOEFL事業部 峯 純子 )

[Back to Top](#) 

英語に限らず外国語を学習していると、言葉の世界の奥深さに気付かされます。古来の日本人は言霊（ことだま）と評して、言葉には霊が宿り、見えざる力を働かすのだと考えました。使い慣れた短いフレーズの中にもコミュニケーションを左右するほどの力があるのです。ご好評頂いている連載「言葉の玉手箱」では、ETS公認コンサルタントの川手 ミヤジェイエフスカ 恩先生が、異文化間コミュニケーションにおける言葉の使い方の重要性に焦点をあて、興味深く解説していただきます。言葉の世界の面白さをお楽しみください。



■ Dr. 川手 ミヤジェイエフスカ 恩（めぐみ） ■  
(Megumi Kawate-Mierzejewska, Ed.D, Temple University)

#### 【経歴】

テンプル大学ジャパン集中英語課程 助教授  
2000年より、ETS公認コンサルタントを務める。

専門：中間言語語用論（Interlanguage Pragmatics）

### 第5回：‘ SMOKE FREE ’ ~ 喫煙所、それとも禁煙？ ~



先日、全国語学教育学会語用論部会機関紙(ニュースレター)を読んでいて面白い記事を見かけた。それは山本 せつみ氏によって Coconut Expressというハワイ大学のHawaii English Language Program のニュースレターに紹介されたものである。彼女が初めてハワイ空港に降り立った時 "SMOKE FREE"というサインを見かけたが、そのサインの真下で日本人観光客がアメリカ人の軽蔑にも値するほどの視線を無視してプカプカとタバコを吸っていたというものである。

これを読んだ時、兄弟姉妹とその伴侶たちでハワイ旅行に出かけた父たちの話を思い出した。どうやら筆者の父も"SMOKE FREE"と書かれたサイン辺りでタバコを吸っていた人物のひとりらしい。彼がそのサインのある辺りでタバコを吸っている時、近くにいた彼の姉はいち早くアメリカ人の非難のまなざしに気づき、あとで添乗員さんに聞いたら"SMOKE FREE"というのは"SMOKE FREE area"ということで「そこではタバコは吸えない」のだと言うことを教えてくれたというものだ。



父は第二次世界大戦の始まる前に、今でいう高等学校で生まれて初めて外国語に接し英語を学んだという人物で（ちなみに当時は日本人教師によって直説法を使おうという傾向にあったらしいが）英語の基礎的なことは習得できているらしい。その父の言い分といえば、「free」と言うのは「自由に・思う存分に・遠慮なく」とか「無料の」と言う意味で使われるのでそのサインのあるところではいつでも遠慮なくタバコが吸えるのだというものである。まさかそのサインが「smokeのないエリア」と言う表現で禁煙を意味するものであったなんて思ってもみなかったようだ。したがって、アメリカ人の非難のまなざしなど汲み取れるわけがなかった。



このような誤解を免れるためにも、異文化の状況にて非難のまなざしを感じたらその瞬間に立ち止まって考えてみる必要があるのではないだろうか。

川手 恩 テンプル大学ジャパン

## TOEFL®-CBTセミナー開催スケジュール

コンピュータ版TOEFL®を初めて受験する方、必見！

当事業部では、国際標準の英語能力評価試験であるTOEFLの日本事務局として、コンピュータ版TOEFL (TOEFL-CBT) について分かりやすくご説明するセミナーを無料で開催しております。(東京：毎月1回、関西：隔月1回予定)



ご好評頂いているこのセミナーでは、ETS公認コンサルタントが試験対策とともにコンピュータ版試験の説明をいたします。質疑応答の時間もございますので、不安を取り除いて本番試験に臨めます!!セミナーに参加いただいた方にはTOEFL CD-Sampler(定価\$18：サンプル問題67題含む)も無料で配布しております。

世界に飛躍するために今後TOEFLを受験されるご予定の皆様はもちろんのこと、コンピュータ版TOEFLにご興味のある方はどなたでも参加できます。今後の準備に是非お役立て下さい。

下記セミナーは、既に終了しております。

### 【セミナー開催スケジュール】

東京：

日時： 2003年3月31日(月) 18:30 20:30  
2003年4月21日(月) 18:30 20:30

場所： 東京ウィメンズプラザ 視聴覚室

定員： 150名様(先着順)

[Back to Top](#) 



留学後、大学で英語を教える 小林 剛 さん インタビュー！  
～教える側から～

今回は、TOEFL受験者インタビューの拡大版として「教える側から」と題し、フルブライト奨学金で米国ブラウン大学へ留学され、Teaching AssistantやResearch Assistantを経験された後、日本の4つの大学において英語を教えていらっしゃる小林 剛さんに、日米の教育の違いなどについてお話を伺いました。(TOEFL事業部)

### ☐☐☐ 受験者データ ☐☐☐



小林 剛 (こばやし・ごう)

#### 【略歴】

東京大学教養学部教養学科アメリカ科卒業  
東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了  
同博士課程在籍中にフルブライト奨学金を受け、ブラウン大学留学  
2002年4月に帰国し、青山学院女子短期大学、共立女子大学、工学院大学、鶴見大学で非常勤講師として教鞭を取りつつ、ブラウン大学アメリカ研究学部博士課程 Ph.D. candidateとして博士論文を執筆中。

#### - TOEFLを受験されたことはありますか？

はい。フルブライト奨学金に応募する際にTOEFLのスコアが必要で、その時に受験しました。当時は、修士論文執筆中でTOEFL受験にあたって何も準備できず、ストレスのなかでフルブライトの足切りを何とか通過して奨学生に選ばれました。その後、アメリカの大学院に出願する際にもう少し点数が高い方がいいだろうということで、さらに2回ほど受けました。受験対策は何もしていませんでしたが、在学していた東大のアメリカ科はすべて少人数の授業で、この授業についていく過程で読む力はつきました。でも、listeningやspeakingの勉強は何もしなかったので、実際に渡米してからかなり苦労しましたね。TOEFLではreadingが好きなので、文法とreadingで点数を稼ぎました。

#### - 特に受験対策なしで留学基準点を取れる、普段の勉強方法を教えてください。

本当に特に何もしていません(笑)。ですから、渡米してすぐの頃は大変でした。先生が言うことはなんとなく分かりますが、学生たちは話すスピードも速く、半年くらいはほとんど分かりませんでした。そこで、これをなんとかしようと、ひたすらテレビを見ました。専門がアメリカ研究なので、「リサーチ」と称して(笑)。最初は画面に字幕(closed caption)を出して、「フレンズ」のようなシチュエーション・コメディを見て会話など楽しみながら勉強しました。個人的にSFも好きなので「スタートレック・シリーズ」もよく見ました。このドラマでは、ゆっくりはっきり話してくれるのでlisteningの勉強に役立ちました。その後、弁護士物や裁判物などを見るようになりました。

## - ブラウン大学での様子を教えてください。

留学して2年目まではフルブライトとブラウン大学が授業料と生活費を出してくれたので、3年目からアシスタントの仕事を始めました。前期は占領期日本文化へのアメリカ文化の影響を調べている先生のリサーチ・アシスタント（RA）になり資料検索や翻訳のお手伝いをして、後期はティーチング・アシスタント（TA）をやりました。アメリカの講義科目は先生の講義を聴くクラスとその後discussionするクラスで構成されていますが、私はそのdiscussionの30名ほどのクラスを2つ担当しました。1学期に3、4回提出のペーパーを採点し、最終成績まで付けていましたが、あまりに時間を取られるので、4年目にブラウン大学の隣にあるRhode Island School Of Designという美術系学校に付属の美術館でインターンシップに通ったときは正直ホッとしました。そこでは浮世絵コレクションなどのデータベースを作る仕事をしましたが、専門上とても勉強になりました。アメリカでは、基本的にdiscussionへの参加が授業にどれだけ貢献したかという成績の判断材料になるので、レポートがどれだけよくても授業で話さない学生には1ランク下の成績を与えないといけないのが難しかったですね。私はアメリカの政治文化史を担当しましたが、クラスにはもちろん白人、アフリカ系、アジア系、ヒスパニック系など様々なバックグラウンドの学生がいて、活発な意見交換が行われました。discussionが活発だったのは成績に響くことを知っている影響もあるかもしれませんが。（笑）その点、日本の学生はほとんど話しませんし、何か発言を求められても「自分の意見」が無いように思います。学年にもよりますが、ブラウン大学生も1年生は知識量だけを見るとそれほど高いわけではありません。ただ、アメリカの学生は「自分で調査する力」は既に持っているので、少しアドバイスをあげると次のペーパーから良くなりますね。反対に、日本の学生はすべての手順を説明しないとできないことが多いです。どうしても知識偏重で、暗記が勉強だと思っているところがあるようで、「自分で調べて意見を述べる」教育を受けていない点が日本とアメリカの違いだと思います。

## - 自分の意見を持つにはどうしたらいいと思いますか？

やはり、動機付けが大切だと思います。よく、使える英語といいますが『何のため』の使える英語かを明確にする必要があります。会話でも、英語は単なるツールなのでそれを使って「何を言えるか」という部分が重要なのですが、内容抜きでとりあえず「会話」ができるだけでは意味が無いですね。向こうの授業でdiscussionの輪に入るのは最初のうちは大変なことだと思うので、英語はできるに越したことはないのですが、それが決定的に重要だというわけではありません。特に大学院レベルでは、自分の意見や立場というものがないと英語ができるだけでは難しいと思います。最近では、留学すると就職が有利になるということもなくなっているため、『その留学が自分にとってどれほど必要なのか』をよく考えてから行くのがいいと思います。ただ漠然と留学したいというだけの人は少し心配ですね。

## - 留学するにあたって心掛けておくべきことを教えてください。

英語教師としては、日頃から衛星放送などを通して英語のニュースを見ましようということですが、その前の段階からの心掛けが必要だと思います。今日、常に何らかの選択をしなければいけない世界情勢の中で、日本人はその「選択」が苦手だと思います。あらゆることに関して日本はアメリカに追随する傾向にあります。戦後50年を過ぎて、そろそろこの受身的な姿勢は卒業してもいいのではないかと思います。また、英語の勉強に関しても、なぜ英語を勉強するのかという意識をしっかりとって、一つ一つ考えて勉強して欲しいですね。英語が世界共通語になって便利にもなりましたが、それによって問題も出てきているわけです。日本は敗戦したにもかかわらず日本語を保持しつづけることができました。英語を公用語、あるいは準公用語にしている他の国々と比較して、日本は世界のなかでどういう位置にあるのか、そういったことを考えながら英語を勉強していくことができれば最高ですね。日本では、誰もが「英語、英語」となっているように見えます。便利ではありますが、だからといってみんながこれを無条件に受け入れる必要はないと思います。しかし、国際経済の中で日本の将来を考えると、あまりにも英語ができないのも困り物です。他の国際企業と競争もできないですからね。

## - 大学において英語教育に関する改革などはありますか？

私も、自分でいろいろと試みています。重要なことは、学生自身に「なぜ英語を勉強するのか」という意識や英語に対する興味が無いので、そういった動機付けをいかにして行うかということだと思います。これからは、自分の専門に近いことを混ぜながら英語を教える教授法にして、学生の興味をかき立てるような授業にしていきたいですね。例えば、readingの授業は今一番やりにくい授業なのですが、生徒を一人一人当てていくだけの訳読では生徒も、教える側もつまらない授業になってしまいます。そこで、4月からの講読の授業では、「M.バタフライ」という中国系アメリカ人の書いた戯曲をテキストにして、英語とともに文化政治学やオリエンタリズムといったことについても討論できるような授業にする予定です。ミュージカルの「ミス・サイゴン」やハリウッドで大ヒットした映画の「サヨナラ」、それにオペラの「マダム・バタフライ」なども参照して、多角的・重層的に一つのテキストを読む面白さを多少なりともわかってくれればいいと思っています。ビデオは授業中には全て見られないので、何人かの学生に一つのビデオを割り当て、グループ発表をしてもらうといった少しアメリカ型の授業方式にしたいですね。うまくいくかどうかは分かりませんが、ここから学生が更に高度で、専門的なものに持っていけるような教え方をしたいと思っています。

## - どうもありがとうございました。

(インタビュー：TOEFL事業部 秋山めぐみ)

[Back to Top](#) 

GRE新教材入荷

2002年10月開始  
New General Test対応!!

お待たせいたしました!!  
皆様からのご要望が多かったGREのための新しい教材  
「GRE : Practicing to Take the General Test ( 10th Edition ) 」  
が入荷しました!! 内容と特徴は、下記のとおりとなります。



内容と特徴：

VerbalとQuantitativeセクションは、実際の試験の7回分が掲載されています。

ペーパー問題集ですが、勿論CBT受験準備にも問題形式に慣れていただくには十分ご利用頂ける充実の問題数!!

新たに加わったAnalytical WritingのIssue Task とArgument Taskそれぞれ2回分の実際の問題とスコア別回答例掲載。

どのようなエッセイが書ければ高得点に繋がるかご参考いただけ、エッセイ対策にもお勧めの一冊!!

既にCIEEの青山のレセプションおよびホームページの[教材オンラインショップ](#)でも販売を開始いたしております。

(レセプション販売時間：9時30分～17時30分、オンライン販売：24時間対応)

その他、CIEEではTOEFLやGMATなどETS公式教材の販売を行っております。ご興味のある方は今すぐお立ち寄りください!!